

水産物の安全性と消費者の信頼確保のため、令和5年度においてもトリチウムを対象とする水産物のモニタリングを実施します。

<令和4年度>

- 北海道から千葉県まで、東日本の太平洋側で200検体程度を分析。
- 精密な分析のため、分析結果を出すには1か月半程度の期間を要する。
- 検出限界値は、最大でも0.4Bq/kg程度であった。

<令和5年度>

- ALPS処理水の海洋放出される場合、できるだけ早くモニタリングの結果を生産者・消費者に提供し、風評を抑制したい。
- 具体的には、検出限界値を10Bq/kg程度とし、翌日又は翌々日に結果を得られる手法（迅速分析）を実施。

<分析期間・頻度>

- 分析期間は、放出後 1 か月程度を見込む。
- 放出直後、できるだけ毎日（土日も含め）、分析。

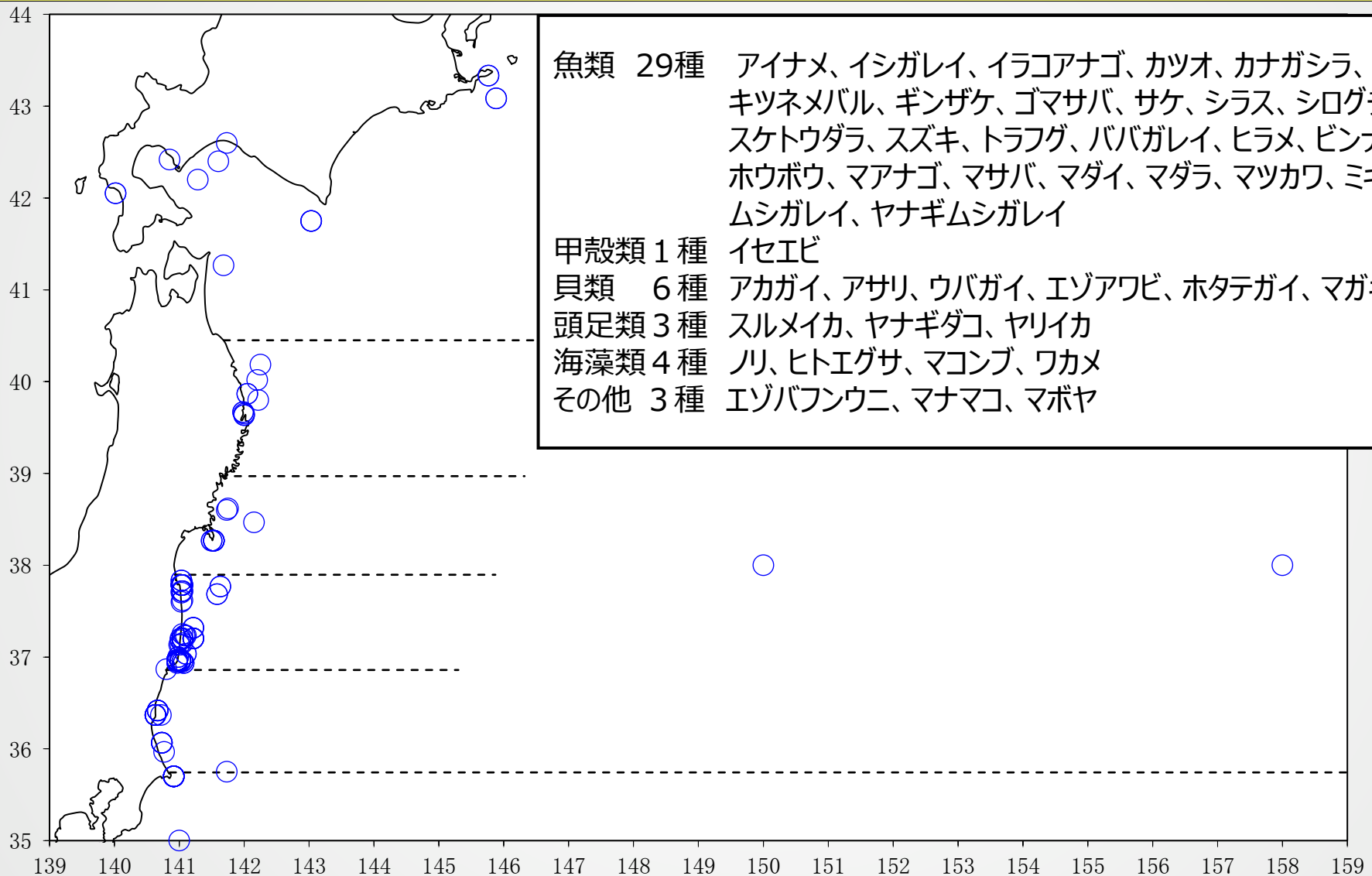
<採取場所・方法>

- また、サンプルは、福島第一原発の北側と南側の 2 地点で採取。
(東電が実施している請戸川沖、熊川沖でのサンプル採取。)
- できるだけ確実にサンプルを確保。



トリチウム分析結果 ①

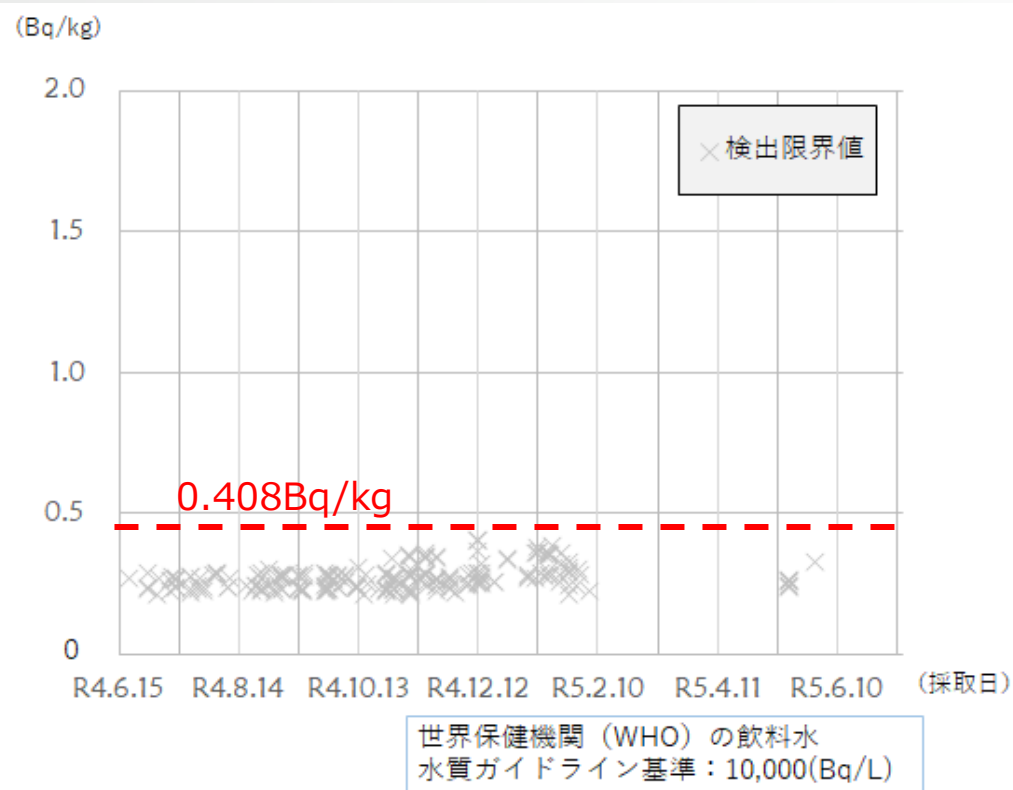
● 令和4年6月から開始し、令和5年7月3日時点で224検体の分析を実施しました。



トリチウム分析結果 ②

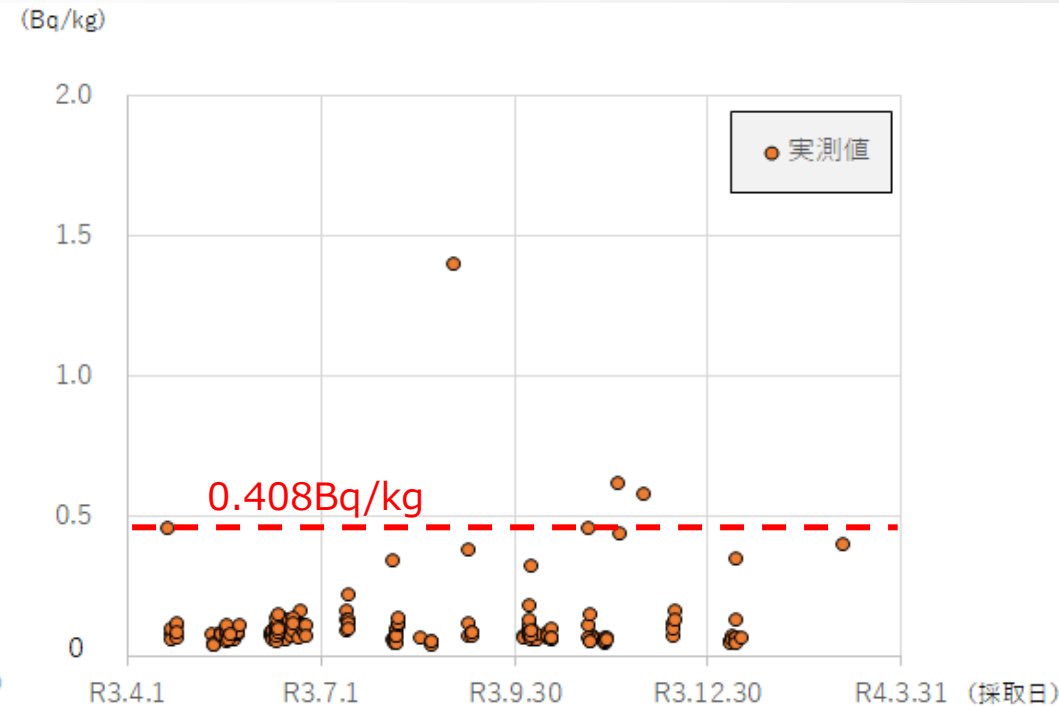
- トリチウムの分析結果は全て検出限界値（最大で0.408Bq/kg）未満で、海水のトリチウム濃度と変わらない（＝トリチウムは生物濃縮しない）結果となりました。

水産物中の組織自由水型トリチウム



出典：水産庁webサイト
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/kekka.html>

【参考】海水のトリチウム濃度(2021年度)



出典：環境放射線データベース<https://www.kankyo-hoshano.go.jp/>

海水の採取地はデータのある北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県を記載

- 水産庁では放射性物質検査の結果をHPで公表しています。

水産庁 [English](#) [ミッズサイト](#) [サイトマップ](#) [文字サイズ](#) [標準](#) [大きく](#)

[逆引き事典から探す](#) [キーワードから探す](#) [検索](#) Google 提供

[水産庁について](#) [政策について](#) [分野別情報](#) [報道・広報](#) [申請・お問い合わせ](#)

[ホーム](#) > [分野別情報](#) > [東京電力福島第一原子力発電所事故による水産物への影響と対応について](#)

水産物における放射性物質の影響とその対応



新着情報

- ❖ 「知ってほしい放射性物質検査の話」の英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語、タイ語版を更新しました。（令和4年10月19日）
- ❖ 【データ更新】水産物の放射性物質調査の結果について（令和4年12月16日）
- ❖ トリチウム分析結果を公表しました。（令和4年9月9日）

水産物における放射性セシウムの検査について

- ❖ 直近の状況
水産庁では、関係自治体及び関係業界団体等と連携し、これまで約18万検体の水産物の放射性物質調査を行ってきました。
調査の結果、基準値（100Bq/kg）を超える割合は、過去2年間で6検体のみとなっています。
[詳しくはこちら](#)